

神田外語大学 留学生別科

2026年 秋学期

科目概要

【選択科目】



目次

科目名	履修できるレベル							ページ
	1	2	3	4	5	6	7	
発音3・4			●	●				... 1
発音5・6					●	●		... 3
自律学習1・2・3	●	●	●					... 5
自律学習4・5・6				●	●	●		... 7
読む聞く1・2	●	●						... 9
読解3・4			●	●				... 11
読解5・6					●	●		... 14
口頭表現2・3		●	●					... 16
口頭表現4・5				●	●			... 18
口頭表現6・7						●	●	... 20
文章表現4・5				●	●			... 22
文章表現6・7						●	●	... 25
ビジネス文化入門4・5				●	●			... 27
ビジネス文化入門6・7						●	●	... 29
社会文化入門1・2・3・4	●	●	●	●				... 31
社会文化入門5・6・7					●	●	●	... 33
Japanese Society and Culture	●	●	●	●	●	●	●	... 35
History of Tokyo	●	●	●	●	●	●	●	... 37

* 科目概要の内容は変更される場合があります。

発音3・4 (b)	稲葉 和栄	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、音や拍・リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの日本語の発音について勉強します。

授業では、発音の練習方法やツールを紹介します。その中から、自分に合う方法やツールで練習して、苦手な発音を直します。また、クラスメイトとの発音練習や活動をして、教師やクラスメイトにフィードバックをもらいます。

授業中に勉強した内容をレコーディングして、提出することを課題とします。また、学んだ発音のルールに気をつけながら、やや長いダイアログや文章をレコーディングして提出することを最終課題とします。2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

※授業内容は変更する可能性があります。

学習内容(予定)

拍とリズム

アクセント

イントネーション

長音・促音・撥音

区切り、ポーズ／プロミネンス

名詞のアクセント

動詞のアクセント

形容詞のアクセント

発音に気をつけて自己紹介をする

ニュースや会話ダイアログを読む

課題を書いて発表

教材

『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』 赤木浩文他著、スリーエーネットワーク、1,760円、 ISBN: 9784883195527

OJAD(Online Japanese Accent Dictionary) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

スマートフォンなど音声を録音できるデバイス、そして音声を聞くヘッドフォンを持参してください。

授業では、自分の間違いを恥ずかしがらずに、たくさん練習できる方を歓迎します。

授業では、クラスメイトの前やペアで自分の発音を発表したり、録音した発音をみんなと一緒に聞いて、教員やクラスメイトから履修者の発音に対してフィードバックがあります。自分の発音に対してみんなの意見を聞くのと同時に、クラスメイトの発音に関しても自分が気が付いたことを発信しましょう。

発音5・6 (b)	稲葉 和栄	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日1限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日本語の音やリズム、アクセント、イントネーションなど日本語の発音に関するさまざまな要素について学びます。個人練習だけでなく、ペアやグループ練習を行いながら、自分の発音上の問題点に気づき、それに必要な練習を行います。

授業では、各学生が自分の発音を録音し、それを教師やクラスメイトと一緒に確認し、課題や改善点を考える活動も取り入れます。

この授業の1つめの目標は、教師やクラスメイトのフィードバックを得ながら、自分の発音の特徴を理解することです。2つめの目標は、自分の特性に合わせた効果的な発音の学習方法は何かを考え、教室以外でも持続して自分の発音に意識を向けられるようにすることです。効果的な学習方法を探るために、「発音や音声の基本的な知識(知識)」「音を聞き理解できる練習(理解)」「音を出す練習(産出)」を授業で扱います。説明はすべて日本語でおこないます。また、発音練習に役に立つ動画の紹介やインターネットツールも授業の中で紹介します。2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

学習内容(予定)

授業で扱う、具体的内容を以下にいくつか挙げます。履修する学生のニーズに合わせ、授業で取り扱うトピックは、履修する学生のニーズに合わせ柔軟に対応していきます。

- ①印象に残る自己紹介と発音
- ②日本語の音(五十音・外来語音(例:カタカナで表記される音)など)
- ③日本語のリズムと拍感覚(例:フット)
- ④話し言葉の発音(縮約形(例:パソコン)、無声化(例:「山田です」の「す」)
話し言葉のロールプレイ(ペア・グループワーク)
- ⑤名詞のアクセント(頭高型・中高型・尾高型・平板型・アクセント核)
- ⑥イ形容詞と動詞のアクセント(活用語尾のアクセント)
- ⑦イントネーション(イントネーションと表現意図(例:上昇調・下降調・平調))
- ⑧友だち言葉のアクセント ロールプレイ発表

教材

『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 戸田貴子 著、スリーエーネットワーク、3,300円、 ISBN: 9784883192953

成績評価

授業参加度 20%

課題(録音提出含む)50%

発表(ロールプレイ)30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

スマートフォンなど音声を録音できるデバイス、そして音声を聞くヘッドフォンを持参してください。

授業では、自分の間違いを恥ずかしがらずに、たくさん練習できる方を歓迎します。

授業では、クラスメイトの前やペアで自分の発音を発表したり、録音した発音をみんなと一緒に聞いて、教員やクラスメイトから履修者の発音に対してフィードバックがあります。自分の発音に対してみんなの意見を聞くのと同時に、クラスメイトの発音に関しても自分が気が付いたことを発信しましょう。

自律学習1・2・3 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は伸ばしたいと思う技能や知識、興味のあることなどについて目標や学習内容を自由に決め、学習計画を立てて、学習を進めます。毎回の授業が終わったときに、「その日の学習がどうだったか」をふりかえって学習ログに書きます。教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関するアドバイスをしたりして、学生が自分にあった学習の方法が見つけれられるよう協力します。学生は、学習方法などを教師に相談することができます。

※自分の好きなテーマを選んで、関連のある日本語を学習することもできます。

※サイクル1、サイクル2で同じテーマを選んでもかまいません。また、違うテーマを選ぶこともできます。

学習内容(予定)

1学期に2サイクル行います。1サイクルの最後に、クラスメイトと学習成果や学習方法などについて発表・共有します。また、次のサイクルの目標を立てて、学習を進めます。

1回目	目標と学習計画を立てる。	×2サイクル
2回目	自分が計画した学習をする	
3回目	自分が計画した学習をする	
4回目	自分が計画した学習をする	
5回目	学習成果やふり返りを発表(共有)する。 次のサイクルの目標を考える。	

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

課題(学習計画・学習ログなど)60%

発表・共有 20%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業中は、自分で立てた目標に従って学習を進めます。他のクラスの課題やテストのための勉強などをすることはできません。

自律学習4・5・6 (b)	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は自分で作った計画に基づき、伸ばしたいと思う技能や知識を選び、学習を進めます。そしてその学習がどうだったか、終わったときに振り返りをします。

教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関する様々なアドバイスをしたりすることを通して、学生が自分にあった学習の方法が見つけれられるよう協力します。

※マンガ、音楽、料理、ファッションなど自分の好きなテーマを選んで、関連のある日本語を学習することもできます。

※サイクル1、サイクル2、サイクル3で同じテーマを選んでもかまいません。また、違うテーマを選ぶこともできます。

学習内容(予定)

全体を3つのサイクルに分けて、自分の学習を行います。(学習計画と目標設定、毎週の学習、サイクルのふりかえり)。そのほかに効率的な学習の方法を勉強します。

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

計画と振り返り 60%

課題 20%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となる。
- ・毎回の授業に出席し、学習した内容は必ず報告する。
- ・自律学習の時間に他の科目の課題をしない。
- ・自律学習の時間は自由時間ではないので、関係のないことはしない。
- ・サイクルに入ったら計画していないことを勉強してはいけない。（「来週他の科目のテストがあるから今日は学習計画にある勉強をしないで、来週のテストの準備をする」「今日の午後プレゼンテーションがあるから、その準備をしたい」などは不可）

読む聞く1・2 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、さまざまな読み・聞きの自律的な活動を通し、読解力と聴解力を総合的に伸ばすことを目的としたコースです。

学習内容(予定)

授業には「読む時間」「聞く時間」「活動の時間」の3つがあります。

「読む時間」「聞く時間」では、クラス全員で同じものを読んだり聞いたりするのではなく、一人一人が自分で読みたいもの・聞きたいものを選び、各自で読む・聞くを行います。講師が用意した本やCD、オンライン上のリソースを使って、自分の興味のある教材をたくさん読み、たくさん聞く、自律的な「多読・多聴」を行います。

本の朗読を聞きながら読んだり、日本語の動画を見ながら聞いたりすることもできます。

授業で読んだり・聞いたりしたものについては、学習記録(タイトルや楽しさ、感想など)を書きます。自分の記録なので母語での記入も可能です。

「活動の時間」では、その日に読んだ本の印象的なことばやページ、好きな登場人物をクラスメイトと共有するブックトークを行います。他にも、キャラクターに手紙を書いたり、話の続きを考えたり、ブックレビューを書いたりなど、いろいろなアクティビティをします。

コースの最後には、多読・多聴でインプットしたことを使って自由に表現する作品制作を行います。

す。創作物語や旅行日記、母国の文化や伝説、マンガやゲームなど、自分のアイデアを自由に表現するプロジェクトです。ビジターを招いて作品の発表会を行います。

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 40%

課題60%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業ではオンライン上のリソースも使います。ノートPCやタブレット、イヤホンを持参してください。

読解3・4 (b)	李 榮	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

この授業では、様々なタイプの文章を読み、身近な話題や自分の関心のあるテーマについて理解を深めることを目指します。読んだ内容を整理し、自分の言葉でまとめたり、仲間と話し合ったりする活動を通して、考えながら読む力と伝える力を伸ばします。

学習内容(予定)

初中級レベルの様々な読み物を読んで、日本語で書かれた文章を理解するための知識を増やし、「読む力」を身につけます(トピックは、学期によって異なります)。授業は、以下のような流れで進めます。

- 1) 授業の前に、必ず、漢字の読み方や単語の意味について、予習してきてください。
- 2) 授業では、読み物の内容について仲間と話し合いながら読み進め、理解を深めます。
- 3) 読み終わったら、理解したことを「文章でまとめて」提出してください。
- 4) 学期の最後には、興味のある読み物をひとつ選んで、その内容について発表します。

※「読解3・4」は、多読の授業ではありません。

教材

授業で配布、紹介します。

※参考書

『日本語学習者のための 読解厳選テーマ25+10 [初中級]』清水正幸・下郡麻子・沖中晃子 凡人社

『「再話」を取り入れた日本語授業 初中級からの読解』小河原義朗・木谷直之 凡人社

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%

課題 50%

最終課題(発表)20%

履修上の注意点

1) 課題に取り組む際は、生成AIの使用に関する先生の指示を必ず守ってください。この科目の課題は、自分で読み物を読み、内容について考え、自分の言葉でまとめることを通して、「読む力」を身につけるための練習です。間違いのない完璧なものを提出することが目的ではありません。そのため、次のような生成AIの使用は禁止します。

- 読解課題の読み物を、最初から生成AIに読ませること
- 読み物の内容や設問への答えを、生成AIに説明させること
- 読んだ内容を、生成AIにまとめさせること
- 課題で使用する例文や文章を、生成AIに作らせること
- 生成AIが作成した文章を、そのまま、または一部を修正して提出すること

読み物の内容がよく分からないときや、自分の理解が正しいか確認したいときも、まずは自分で考え、授業で仲間や先生と話し合いながら、理解を深めてください。その後も分からないことが残った場合に限り、先生の指示に従って、生成AIの使用を限定的に認めることがあります。

生成AIを使用して作成した文章を、自分が作成した文章として提出した場合は、不正行為と見なされます。生成AIを使用してよいか分からない場合は、使用する前に必ず先生に確認してください。

2) 課題の提出期限を必ず守ってください。提出が遅れた場合は、減点の対象となります。

3) 教材は、主にGoogle Classroomで配布します。授業では、配布された教材を見たり、課題に取り組んだりするため、必ず自分のノートPCまたはタブレットPCを持参してください。ノートPCまたはタブレットPCは、この授業に必要なものですので、持参しなかった場合は、減点の対象となります。

4) 2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

読解5・6 (b)	安部 智恵子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

この授業では様々なタイプの文章を通して、日常的で身近な話題や自分が興味のある話題、さらに日本に関する評論や新聞記事、社会的・専門的なテキストの内容が理解できるようになることを目指します。

学習内容(予定)

- I. 日本語の文を読む技術(読解ストラテジー)の理解と練習。
- II. 様々なタイプの文章の読解(内容、筆者の考え、表現意図を深く理解する)。
 - ・日常生活での読み物(例: SNS、情報サイト、ニュース記事、新聞投書など)
 - ・日本に関する読み物(例: 日本人の行動様式、日本語、文学作品、時事など)
 - ・各分野に関する読み物(例: メディア、科学技術、教育、通訳、環境など)
 - ・専門性の高い文章
- III. 文章を読んで考えをまとめ討論したり、さらに調べて発表したりする。
- IV. 自分の専門分野に関する文章の紹介や、読み物に関する文芸創作などを行う。

教材

授業で配布する。

成績評価

授業参加度 20%

課題Ⅰ（予習・復習）50%

課題Ⅱ（創作・発表）30%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

口頭表現2・3 (b)	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

学習内容(予定)

「あいさつや自己紹介をする」「場所・時間・値段を聞く」「日頃のルーティンや週末の過ごし方について話す」など、日常的なトピックを取り上げ、モデル会話を勉強します。その後、ペアやグループで短いスキットを作り、練習をします。練習が終わったら、動画を撮って提出してください。また、ビジターセクションでは、習った表現を使って、「初めて会う人」と会話をします。学期の最後には、グループでのプレゼンテーションやスピーチの発表会をします。

教材

授業で配布、紹介します。

※参考書

「新・わくわく文法リスニング100—耳で学ぶ日本語—」小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子 凡人社

「新・シャドーイング 日本語を話そう！ 初～中級編」斎藤仁志・深澤道子・掃部知子・酒井理恵
子・中村雅子・吉本恵子 くろしお出版

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

口頭表現4・5 (b)	徳永 あかね	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

学習内容(予定)

口頭表現4・5は、「Task先行型のロールプレイ」を使って日常生活で遭遇する場面や状況に必要な口頭表現を学習します。

- ・ 毎回の授業では、これまで学習した日本語を使ってロールプレイ(role play)に挑戦します。
ロールプレイをしたあとで、ロールプレイを振り返って場面や状況に適した日本語表現を確認します。また、その日に学習した表現を各自で練習し、録音して提出します。
- ・ コースの後半では、最終課題として自分の経験に基づいた場面のロールカードを作ります。
そして、そのロールカードの場面でどのように話したら良いかやその場面で使う日本語の表現を調べて会話例を作ります。

以上の15回の授業を通して、日常生活で遭遇する日本語でのコミュニケーション場面を自分で振り返り、必要な口頭表現を学んでいく力を養うことを目指します。

到達目標

(1)言語能力(Linguistic Competence)

日常生活の場面で自分に必要な語彙や表現を整理し、実際のコミュニケーション場面における使い方を理解する。

(2) 社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)

相手や場面に応じて適切な言葉や表現を選んで使い分けることを意識できる。

(3) 社会文化能力 (Sociocultural Competence)

日常のコミュニケーション場面において、出身国やこれまで滞在したことがある国と日本との違いを理解し、コミュニケーションの時に気をつけることができる。

教材

授業で次回の授業で使用するプリントを配布します。配布するプリントのPDF版をGoogle classroom経由でも配布します。

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

- ・ 2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。
- ・ 毎回の授業で他のクラスメートの前でロールプレイをしたり、話し合ったりします。
- ・ 課題の提出はgoogle classroomで行います。

口頭表現6・7 (b)	安部 智恵子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

到達目標

- ・日常的な話題において、相手や状況に応じて適切な表現を使って流暢に会話ができる。
- ・社会的・文化的なテーマについて、根拠のある意見を述べながらディスカッションやディベートができる。また、他者とのやり取りを通して情報を収集し、内容を論理的にまとめて発表できる。
- ・様々な場面に応じた話し方や聞き手に配慮した説明・論述ができる。

学習内容(予定)

- 1)スピーチ(友達の魅力、私のこと、感動シーン、など)
- 2)やりとり(ロールプレイ、インタビュー、など)
- 3)ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
- 4) アフレコ

教材

プリントを配布します。

成績評価

授業参加度 30%

課題(宿題10%・振り返り10%・発表50%) 70%

履修上の注意点

- ・ 授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。
- ・ 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・ 2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

文章表現4・5 (b)	中村 栞	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日常生活の出来事や情報発信、創作的な文章などを題材として、実際の使用場面を想定した文章表現を通して、「書く」ことを中心とした日本語運用力の向上を目指します。授業では、さまざまな文章を読み、内容や表現の特徴を理解したうえで、文章を書く際に必要な語彙や表現、テクニックを学びます。さらに、クラスメイトとの話し合いや読み合いを通して考えを整理し、表現を工夫しながら文章を推敲・改善する力を養います。

学習内容(予定)

中級レベルの説明文、SNS等での発信文、エッセイ、物語などを題材として、読み手を意識しながら文章を書く活動に取り組みます(扱うトピックや文章のジャンルは、学期によって異なります)。授業は、主に以下のような流れで進めます。

- 1)モデル文を読み、文章の構成や表現の工夫など、文章作成に必要な知識を学びます。
- 2)授業内で短い文章を書き、クラスメイトに読んでもらいます。
- 3)授業後、テーマに沿った課題文を書いて提出します。
- 4)教師からのフィードバックやクラスメイトとの話し合いをもとに、書き直します。

教材

授業で配布、紹介します。

※参考書

『身近なテーマで伝える! にほんご作文トレーニング [初中級(A2-B1)]』仙台国際日本語学校・遠藤和彦・瀬戸稔彦 くろしお出版

『グループワークで日本語表現力アップ』野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻之あらと・藤本真理子・稲葉小由紀 ひつじ書房

成績評価

授業参加度 10%

授業内作文 20%

課題 50%

各作文の最終稿 20%

履修上の注意点

1) 課題に取り組む際は、生成AIの使用に関する先生の指示を必ず守ってください。この科目の課題は、自分で内容を考え、自分の言葉で文章を書き、クラスメイトとの話し合いや先生からのフィードバックをもとに書き直すことを通して、「書く力」を身につけるための練習です。間違いのない完璧な文章を提出することが目的ではありません。そのため、次のような生成AIの使用は禁止します。

- 課題で書く内容やアイデアを、最初から生成AIに考えさせること
- 文章の構成や段落の組み立てを、生成AIに考えさせること
- 課題で使用する例文や文章を、生成AIに作らせること
- 自分で書いた文章を、生成AIに書き直させること
- 生成AIが作成した文章を、そのまま、または一部を修正して提出すること

文章の内容や表現について迷ったときも、まずは自分で考え、授業でクラスメイトや先生と話し合いながら、文章を改善してください。その後も分からないことが残った場合に限り、先生の指示に従って、生成AIの使用を限定的に認めることがあります。

生成AIを使用して作成した文章を、自分が作成した文章として提出した場合は、不正行為と見なされます。生成AIを使用してよいか分からない場合は、使用する前に必ず先生に確認してください。

2)課題の提出期限を必ず守ってください。提出が遅れた場合は、減点の対象となります。

3)教材は、主にGoogle Classroomで配布します。授業では、配布された教材を見たり、文章を書いたりするため、必ず自分のノートPCまたはタブレットPCを持参してください。ノートPCまたはタブレットPCは、この授業に必要なものですので、持参しなかった場合は、減点の対象となります。

4)2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

文章表現6・7 (b)	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、みなさんがこれまで学んできた日本語の知識と能力を活かし、その能力を社会的に使うことを目指します。また、身近にある日本語表現から自律的に学べるようになるための分析力も高めます。そして、授業で書いたものは実際にメーリングリストや掲示などを通して発信することで、実際に使える日本語の文章能力を身につけます。

<授業目標>

- ①日本語学習者であるみなさんの能力が活かせる文章を取り上げ、それぞれの表現上の特徴や必要なスキルを学ぶ
- ②実際に日本語で書かれたものを多く見たり読んだりすることで、いい表現の分析力を高める。
- ③文字を使ったタスクを通して、日本語で書くことへの苦手意識を解消する。

学習内容(予定)

- 1:さまざまな文体に触れる
- 2:新聞記事を書く
- 3:人生相談に答える
- 4:ロコミを書く など

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度30 %

課題 70%(提出率30% 達成度40%)

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業にはノートPC、タブレットなど、文章や資料を作成できるものを持参してください。

ビジネス文化入門4・5 (b)	若松 由美	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

ビジネス文化入門4・5では、アルバイトなど身近な場面や、将来、企業やその他の職場で必要とされるビジネス・コミュニケーションについて理解することを目指します。また、ビジネス場面で使われる日本語表現や、コミュニケーションに必要な日本語の使い方を学び、母国との違いなどについて考えます。

<授業の目標>

1) 言語能力

ビジネス日本語の基本的な表現を学び、実際に使えるようになる。

2) 社会言語能力

日本人と日本語を使う職場で仕事をするとき、どの程度の丁寧さで話すことが適しているかを理解する。

3) 社会文化能力

ビジネスの場面の短いスキットを使った練習をしながら、日本の仕事の場面、例えば就職活動をするときに、必要な社会文化を理解する。

将来のキャリアプランを考えるときに、これから先、日本の社会文化をどのように身につけていくべきかを含めて考えていくことができるようにする。

＜毎回の授業の流れ＞ ＊前半の回を例に

1. 授業の前に事前に配布した資料を読み、各自予習の課題をします。
2. 課題について考えたことをクラスで話し合います。

＊第1回は、社内と社外の自己紹介の違いを学びます。その後の前半の授業では、簡単なビジネスメールを実際を書く練習をします。また、電話応対を授業の中で練習します。ビジネスメールでは書いたメールを課題として提出します。電話応対は会話を録音して、課題として提出します。

学習内容(予定)

第1回～第5回

社内と社外の自己紹介・ビジネスメールの書き方・電話応対(入門レベル)

アルバイトの履歴書の書き方

第6回～第10回

敬語(ウチとソトの使い分け)・ビジネスマナー(入門レベル)

第11回～15回

アルバイトや就職の面接の受け方(入門レベル)

ビジネスの場面でのプレゼンテーション(入門レベル)

(プレゼンテーションの仕方・スライドの作成・プレゼンテーションの練習・発表)

※発表が最終課題

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%(敬語)

課題 40%(各回の予習課題とまとめの課題)

最終課題 30%(ビジネス・プレゼンテーション)

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

課題は、主にClassroomで配布します。授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。

ビジネス文化入門6・7 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90 分×週 1 回×15 週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

グローバル化した社会において、異なる文化的背景を持つ多様な人々と働く場面は増えています。そのため異文化の人々とのビジネス場面で、お互いが予期しない衝突が生じることがあります。このコースでは、現実のエピソードをもとに描かれた異文化衝突のビジネス場面のケースを教材として、その問題点についてディスカッションし、協働的に解決方法を見出すことを目指します。また、ビジネス会話やビジネスメールに必要な表現を学び、母語との違いを理解します。

<授業の目標>

- ①フォーマルな場面やビジネス場面において適切なコミュニケーションができる。
- ②異文化のビジネス場面で生じる問題点を発見し、解決方法を見出すことができる。
- ③日本のビジネスの習慣や文化について知り、コミュニケーションに応用できる。

<授業の構成>

毎回の授業で、異文化のビジネス場面におけるケースの問題点を発見し、その解決方法について話し合います(ケース学習)。授業の前に、各ケースの資料を読んで、自分ならどう行動するかを考えてワークシートに書きます(事前準備の宿題)。問題解決のために必要なビジネス場面における習慣や文化、多様な考え方について学びます。

また、ビジネスコミュニケーションに必要な表現を学び、コミュニケーションに応用します。授業で扱ったビジネス日本語表現の確認のため、クイズを行います。

学習内容(予定)

第1回～第5回

ケース学習1-2・自己分析・ビジネスコミュニケーションのための表現1

* 面接のための自己紹介の動画作成(課題)

第6回～第10回

ケース学習3-4・ビジネスコミュニケーションのための表現2・ビジネスメール

第11回～15回

ケース学習5-7・ビジネスコミュニケーションのための表現3・ケース学習の振り返り

* ケース7についてのレポート(最終課題)

教材

プリント配布

成績評価

宿題 20%: ケース学習のワークシートやその他のワークシートを書いて提出。

クイズ 10%: 授業で学んだ表現を確認するクイズを実施。

授業参加度 10%: 担当したケース学習について授業進行と毎回の授業参加

課題 30%: 面接のための自己紹介の動画を作成して提出(自己・他者評価の提出を含む)。

最終課題 30%: 指定のケースに関するレポートを書いて提出。

履修上の注意点

1. クイズ以外の評価は日本語能力によって行いません。
2. ディスカッション中心のクラスなので、積極的な参加が必要です。
3. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点になります。
4. 2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

社会文化入門1・2・3・4 (b)	若月 理恵	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、入門から初中級の留学生のための日本と日本社会について理解を深めるコースです。言語は履修生の能力に合わせ、簡単な日本語と簡単な英語を使います。

授業構成

- ・コースを通して、日本での生活をより楽しみ、日本の社会文化をより考えるためのきっかけとなる項目を取り上げます。
- ・前半は万が一に備えての防災知識や、生活情報を学びます。
- ・中盤以降では、日本の社会と文化について、調査やプロジェクトを通して学習します。学生の興味や疑問を積極的に取り入れながら、プレゼンテーションやクラスディスカッションをして、様々な意見や考えを理解します。

学習内容(予定)

第1回: ガイダンス、アイスブレイク、アプリ／コミュニケーション手段の設定など

第2～4回程度: インフォメーションセッション

- ・防災知識、生活情報
- ・クイズの出題範囲となります。

第5～12回程度: プレゼンテーションプロジェクト

- ・自分たちで興味のあることや知りたいことをリサーチします。KUISの学生にアンケートしたりインタビューしたりします。

- ・リサーチしてわかったことをまとめて、プレゼンテーションします。

- ・プレゼンテーションの後、ディスカッションをします。

第13～14回: 日本文化体験

- ・KUISのサークル主催で、日本文化を体験します。

- *いつものスケジュールとは変わりますので注意してください。

第15回: 振り返り

教材

Google Classroom上で、必要に応じて配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%

課題（ふりかえり/リフレクション）30%

プレゼンテーションプロジェクト 40%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

- ・クラスでは自分なりの意見や見解を述べることが求められます。簡単な日本語、または簡単な英語で意思疎通できることが必要となります。（辞書、翻訳ツール活用可）

- ・プレゼンテーション・プロジェクトでは、各自PC/タブレットの持参が望ましい。

- ・2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

社会文化入門5・6・7 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、中上級の留学生を対象に、文化および社会について理解を深めるコースです。文化・社会を固定的にとらえるのではなく、話し合いや他者とのインターアクションによって様々な価値観を理解し、学習者が主体的に考えることを支援します。学習者は文化・社会に関するテーマで自分自身の「問い」を立て、学期中にグループでキーワード対話を、学期末にグループまたは個人でキーワード発表をします。

<授業の目標>

1. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について説明することができる。
2. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について、自分の体験を通して捉えることができる。
3. 文化や社会において生じる問題に適切に対処することができる
4. 文化・社会に関するトピックについて問いを立て、対話を通してその答えを探求することができる。

<授業の構成>

ワークや話し合いを中心に、1,2コマごとに1つのテーマを扱います。

授業の終わりには、学びを振り返り、その日の授業のテーマに関する自分の意見をまとめて提出します。

学習内容(予定)

コースの序盤では、ワークを通して文化についての基本的な用語や概念について理解します。
コースの中盤では、アートから考える社会文化、現代社会から考える社会文化をテーマとしてワークやディスカッションをします。

10回には学部のゼミクラス、社会文化入門1・2・3・4クラスとの合同授業をします。

コースの終盤では、文化・社会に関するテーマについて自分たちで問いを立て発表します。

15回にはコース全体をクラスで振り返ります。

なお、校外授業として美術館訪問を行います。(通常のクラス授業の日時とは異なりますので注意してください)

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 10%

振り返り 30%

宿題(自己評価・他者評価シートなどの提出) 10%

課題 20% (キーワード発表と対話)

最終課題 30% (キーワードレポート)

履修上の注意点

- 1.課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- 2.授業中の資料の配布やワークシートの提出はgoogle classroomで行います。
- 3.2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。
- 4.美術館との連携活動は、人数に余裕がある場合に限り、1学期目に単位を習得した参加希望者を受け入れます。但し、真鍋までメールで連絡の上、申し込みが必要です。

Japanese Society and Culture

2026 FALL SEMESTER

NAME OF COURSE: JAPANESE SOCIETY AND CULTURE

INSTRUCTOR: Jeffrey, Hall

CREDITS: 4

Course description

This course is an introduction to contemporary Japanese society and culture. The course will introduce students to various facets of Japanese society and dig beneath the surface to explore the structural and historical underpinnings of contemporary Japan. Topics covered range from class, gender/sexuality and ethnicity/cultural identity, war memory, politics, social control, and disaster. Students will be expected to keep up with readings, contribute to class discussion, and design and complete their own research project related to modern or contemporary Japan.

Language of instruction

Lectures will be delivered in English. All written works should be submitted in English.

Requirements

Students should be familiar with reading and writing academic papers in English.

Non-native speakers of English who have achieved a score of 520 or above in TOEFL, 730 or above in TOEIC L&R (or equivalent) are welcome. A score of 550 or above in TOEFL, 800 or above in TOEIC L&R (or equivalent) is preferable. Students do not need to submit the score.

Quota for this course

A maximum number of 40. This is a compulsory course for IES students and we may have to limit numbers.

Class meetings

Monday Period 3 and 4 (13:10 - 16:20)

Method of presentation

This course provides a survey of some of the central issues characterizing contemporary Japanese culture and society. It focuses on values, institutions, processes and patterns of social change against the background of history and tradition on the one hand, and on the other, the ways in which Japan is now having to redefine its place in the world order and in East Asia specifically. The course will expose the student to the main areas of debate in contemporary Japanese society through perspectives from the social sciences and humanities. The course will focus on classroom discussion, and students will give one or more presentations in class. We will read academic articles pertaining to each topic and discuss how the reading relates to issues and problems in Japanese society today. Through this course, students should come away with an understanding of Japanese society that is complex and nuanced, an ability to apply critical perspectives on contemporary culture, and a curiosity to find out more. They will also improve their study and communication skills through a presentation project and a research paper.

Learning Objectives

- Understand in a comprehensive manner key themes underpinning contemporary Japanese society and culture.

- Develop a foundation for detailed and critical analysis of specific aspects of Japanese society, economy, politics and popular culture.
- Utilize methods of social and cultural analysis, means of social observation and techniques for overcoming ethnocentricity.
- Develop and refine independent research and writing skills.

Grading

Mid-Term Paper 15%

Article Presentation 30%

Participation 20%

Final Paper 35%

Pass/Fail grading

History of Tokyo

2026 FALL SEMESTER

NAME OF COURSE: HISTORY OF TOKYO

INSTRUCTOR: Tyner, Colin

CREDITS: 4

Course description

This course explores how the Tokyo metropolitan area has been produced and experienced through human and nonhuman interaction from the early-1600s to the 1970s. Throughout this course, we will be focusing on the margins, not only to bring attention to the voices of the marginalized but also to move into the places that city was at its most dynamic and occasionally at its most tragic. We will explore how this city of water was transformed into a city of land, as Tokyo was colonized by parks, statues, and railway systems within the context of empire. We will talk about how different stakeholders imagined, cooperated and contested government plans to rebuild the city of Tokyo in the context of foreign occupation between 1945 and 1952. Finally, we will talk about how people's anxieties about the future of the city have often played out in apocalyptic imaginaries about one of the warmest cities in the world. While the course is taught in a seminar format, it is intended to serve students as a "laboratory". As with any "lab class," students actively participate in class discussions based on readings, lectures, research, and presentations. Please don't be shy about sharing your daily experiences and observations with the class.

Language of instruction

Lectures will be delivered in English. All written works should be submitted in English.

Requirements

Students should be familiar with reading and writing academic papers in English.

Non-native speakers of English who have achieved a score of 520 or above in TOEFL, 730 or above in TOEIC L&R (or equivalent) are welcome. A score of 550 or above in TOEFL, 800 or above in TOEIC L&R (or equivalent) is preferable. Students do not need to submit the score.

Quota for this course

A maximum number of 40. This is a compulsory course for IES students and we may have to limit numbers.

Class meetings

Monday Period 3 and 4 (13:10 - 16:20)

Method of presentation

Discussions, lectures, and student presentations.

Learning Objectives

By the end of the course students will:

- Critically analyze primary and secondary sources related to Tokyo transformation within a global context of the history of urbanization.
- Discriminate different historiographical practices for writing about different historical categories like gender, race, and the environment within the context of urban history.
- Reflect on their own spatial environments in relation to Tokyo's development.

Grading

1. Participation (10%)
2. Ward quiz (10%)
3. Reaction papers (25%)
4. Midterm exam (25%)
5. Place Paper (30%)

Pass/Fail grading

2026年度 神田外語大学留学生別科 科目概要 選択科目

2026年8月発行

編集・発行 神田外語大学留学生別科

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

無断転載を禁じます